

# 県小中学教研会報

発行 石川県小中学校教育研究会  
金沢市尾山町10番5号  
石川県文教会館内  
電話(076)262-4916

編集 石川県小中学校教育研究会  
広報部

印刷 株式会社 山 越



石川県小中学校教育研究会第7回研究大会



石川県小中学校教育研究会

会長 林 良彦

石川県小中学校教育研究会第七回研究大会の開催にあたり、多くの会員の皆様にお集まりいただき、誠にありがとうございます。また、石川県教育委員会、石川県市町教育長会をはじめ、日頃より本研究会の活動を支えていただいております諸機関より、多数のご来賓の皆様にご列席いただき、心より感謝申し上げます。

平成二十四年に設立された本会の目的は「授業研究文化の継承や研究会のネットワークを県内全域に広げ教育の充実に貢献すること」です。本会は十六の各郡市研究会と二十四の教科等研究会団体で構成され、運営を担当する事務局には各構成団体より役員が選出されています。

大会のテーマは、設立以来掲げている「石川の授業研究文化の継承と発展」です。県内の小中学校にしっかりと存在する「授業研究文化」は、広い視野と深い見識に基づき、日々継承して取り組み続けてきた研究と実践の結晶です。今に続く時において、子どもたちの学びに寄り添い、より価値ある方向へと誘う深い見識を持つ教師による日々の「授業」への取組が、石川県の授業研究文化を継承・発展させてきたのです。

さて、科学技術と社会の関わりが深化・複雑化している知識

基盤社会では、「正解」の追求とともに、状況における「最適解」を多様な他者とかかわりながら生み出すことも、より必要とされる時代でもあります。

このような時代を生きる子どもたちに身につけさせる資質・能力として、新学習指導要領では「知識・技能」の習得にとどまらず、問題解決に活用する「思考力・判断力・表現力等」、さらに、粘り強く取り組む力や対人関係に対応する力をも含む「学びに向かう力や人間性等」が示されています。このような資質・能力を身につけた子どもたちがかわりを通して、多様な視点や発想を共有することにより、創造性をさらに発揮することができます。

そのために、教師は「何ができるようになるのか」という視点で資質・能力を整理し、「何を学ぶか」指導内容を検討し、「どのように学ぶか」で授業を構成します。さらに、「一人一人の学びをどのように支援するか」に創意工夫をしつつ「何が身に付いたか」を見取ります。

これからの時代を創造的に生きる子どもたちのために、学教研は、研究の深まりと県下への広がりや寄与する教育研究会となれるよう、教師がかかわりあえる場を今後も提供していきたいと思っております。



祝辞

石川県教育委員会

教育長 田中新太郎

本日、「石川県小中学校教育研究会第七回研究大会」が、盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。

本日お集まりの皆様には、日頃より、本県の学校教育の充実や児童生徒の健やかな成長に向けた取組へのご協力ならびに、その積極的な推進にご尽力いただき、感謝申し上げます。

さて、来年度から小学校において、新学習指導要領が全面実施になります。新学習指導要領には、外国語教育の充実、プログラミング教育を含めた情報教育の充実をはじめ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められています。

県といたしましては、こうした方向性を踏まえ、能動的学習推進事業で開発した、優れた指導法を集約した国語、算数・数学の映像資料を作成、配付しました。今年度は、理科、社会の映像資料も作成し、配付する予定であります。ぜひ、校内研修等で活用していただき、教員の授業力向上を図っていただきたいと思います。

各学校では、若手教員の早期育成、教職員の多忙化改善など、様々な取組が進められていると思いますが、新学習指導要領への円滑な実施に向けて、教育内容の改善事項に着実に対応する

ことが必要であり、こうした中で開催される本研究会は大変有意義な機会であると考えています。

今回、七回目の研究大会を開催するにあたり、各地域の教育研究団体等との幅広い交流を通して、これまで以上に充実した活発な研究協議をお願いします。

最後になりますが、本研究会の開催にあたり、ご尽力くださいました関係の皆様に対し、深く感謝を申し上げますとともに、本大会での成果が、小中学校教育のさらなる充実、発展に生かされますことを、心よりご期待申し上げます。お祝いの言葉といたします。

祝辞

石川県市町教育委員会連合会

会長 野口 弘

本日ここに、石川県小中学校教育研究会 第七回研究大会の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

本研究会は、県内で教職に携わっておられる皆様方の、様々な要望に応えるために、各地域や市町ごとにあつた研究団体や研究会を、一本化して誕生しました。

これにより、全県的な視野に立った研究が推進され、現在までに着実に成果を積み重ねてきています。本研究会の設立に携わった者の一人として、心から嬉しく思っています。

さて、本大会のテーマである「石川の授業研究文化の継承と

発展」には、私たち教師がこれまで大切にしてきた「指導力や指導技術」といった、教師にとつての財産を、次の世代へ確実に継承し、発展させていくという強い思いが込められていると思っております。

ところで、ここ数年、教員の大量退職による大幅な世代交代が進む中、若手教員が急激に増えています。こうした若手教員の指導力をどう磨き上げ、質をどう高めていくかが、大変重要な課題となっております。

そのような状況の中、新学習指導要領の完全実施に向けた取り組みが確実に進んでおります。特別な教科としての「道徳」、三・四年の「英語活動」、五・六年の「英語科」、さらに「プログラミング教育」など、この移行期間中にやるべきことは、たくさんあります。

私たち教師は、新しい教育の方向性にしっかり目を向けて、それぞれの状況の中で、新しい見方や、考え方に対応しながら、一人一人が自らの指導力を一層高めていくことが求められています。

ぜひ、オール石川という大きな輪の中で、幅広い角度から効果的に研修を深められ、石川県の教員全体のレベルアップに繋げていただきたいと思います。合わせて、本研究会で学んだことが、それぞれの市町に広がり、県内全ての学校で有効に活かされ、深まり、発展していくことを切に願っています。

結びに、本研究会の益々の発

展と、本日ご参会の皆様方のご健勝をお祈り申し上げます。祝辞といたします。本日は、誠にありがとうございました。どうぞございます。

郡市町教育研究会 協議会報告

中能登町立鹿島小学校 荒巻 幸子

県内十六郡市町教育研究会の代表者が集まり、活動報告の提案と研究協議が行われた。

活動報告の提案

①野々市市小中学校教育研究会 大きく三つの柱「小中連携」「人材育成」「業務改善」により活動を行っている。全ての部会に小中教員が所属している。各

部員が、各学校での担当教科や領域を牽引して役割であることを意識するようにしている。今後は、事業の見直しを図り、各部会の専門性を各学校へ還元させるために、中学校教員をキーマンとして取り組んでいく。

②鳳珠郡学校教育研究会 会員は、いずれかの部会に所属し、全教科で授業研究会を実施している。小中合同での教材研究や指導案検討を実施すること

で、発達段階に応じた授業の組み立て等を考えることができる。また、多くが小規模校であるため、特に若手にとつては、学教研が相談できる場、新たな手立てを得る場となっている。

課題として、学校が広範囲にあり移動時間を要するため十分な研修時間の確保ができないことや部員数の偏りや固定化をど

う活性化に結び付けていくかが挙げられた。

グループ協議

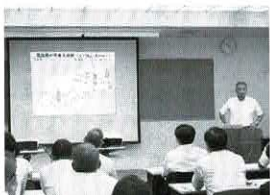
「人材育成」というテーマで熱心な協議が行われた。「教員の専門性を高め、授業力を磨く」ための取組として次の二点がクローズアップされた。

一点目は、小中連携の推進である。保・小・中・高の連携により、まずは、それぞれの校種の特徴や良さを共通理解する。さらに、共通して実践できることから取組を進めたり、子供たち同士の交流を進めたりすることによって、校種間の指導の連続を図ることが可能となる。

二点目は、教科部会の活性化である。どの研究会も計画的に授業研究を位置付けており、多くが外部の指導者を招聘して指導助言を仰ぎながら進めている。「若手による授業」または「モデルとなる熟練による授業」等部会の実態に応じて実施されている。

一方で、「構成メンバー」「構成人数」に関する課題もある。改善策として、近隣地区との合同開催、ビデオ撮影したものを用活用、研究会の通信を発行し広報する等の事例が出された。

若手が増えてきている中で、どのように時間を生み出し、研究を充実していくかが今後の大きな課題とも言える。





記念講演

ふれあいで心を育てる

明治大学教授 諸富 祥彦

心と心のふれあい。気持ちと気持ちの温かいつながりのことを、「リレーション」と言います。お隣のひとと大きな声で叫んで覚えますよ。

「リレーションだぞ。」

1、リレーションの実習  
アレキサンダースコットは自由教育の創造でこう言いました。愛の反対は憎しみではない。では、愛の反対は何でしょうね。愛の反対は無関心。ということ。一人一人の子供に、あなたに関心がありますよということを示していく対応でもあります。

関心があるんだよ、そういうことを一人一人の子供に伝える例をやりますよ。一番の方から自己紹介と軽くはまっていますものについて、こっそりお話を聞いてください。それに対して二番三番四番の方が、いちいち関心もってあったかく関わっていきトレイニングをしますよ。関心無くても関心を示す。関心がある子供に関わるのは誰でもできる。これは素人です。関心無い人に関心示すのがプロの教育者です。

二つ目は、チクチクはダメですよ。皆さんの周りにもダメだしばかりする名人みたいな先生がいると思います。「よしやるぞー」と行事の前に思っている時に、「こんなことやって何か意味あるんですか?」こんな風にダメだしばかりしている先生どの学校にも一人はいると思いますよ。ダメだしばかりされ

ていると、子供達も話す意欲が無くなってしまいます。教師はリレーションの名人でなければなりません。私はそう思います。2、教師は人間関係のプロでなくてはならない

教師の役割は、ティーチングからファシリテーションになりました。つまり教えるってことは教師の役割ではない。子供達があるいは学生達が自分で考えて話し合うプロセスを促進するのが教師の役割です。そういうことはちゃんと覚えておかないといけないよ。「ファシリテーションだぞ。」と叫んでください。先生が答えを出さなくてもいいんです。先生よりも頭いい子がクラスに五人以上いませんか。そういう子供の才能をつぶしちゃダメですよ。そのためには、先生は立ち止まなくていいのよ。先生は立ち止まらなくていいのよ。先生は立ち止まらなくていいのよ。先生は立ち止まらなくていいのよ。

つまり、答えを出すのは教師の役割ではない。ティーチングが教師の役割ではない。ファシリテーションとカリレーションです。関わって促進する。関わって質問して、関わり続ける。促進する。教師のとても大事な役割になります。

教師は、人間関係のプロでなければなりません。教師は、どの子供にもパッと関わる事ができ

き、知人にも保護者にもできる。相性がいい関わりなら誰でもできます。相性の悪い保護者ともパッとそれなりに関わられる。相性の悪い同僚ともそれなりにパッと関わりという意味で、人間関係のプロフェッショナルでなければなりません。「私たちがプロだし」。言っておください。

3、「援助希求」の重要性

学校で一番存在感がでかいのは教頭先生だと思っています。教頭が明るい学校は職員室全体が明るくなる。教頭が陰湿な学校は暗くなる。職員室が暗くなると学校全体が暗くなります。援助希求というのは、助けを求めることができることです。触れ合っていくを育てるってことです。子供の心で育てていきましょう。保護者もそうです。

保護者のどんな人がクレームになり易いか。根っからのクレームは三分の一です。残り三分の二は人工的なクレームです。後天的なクレームというのは、寂しいのです。私大切にしてもらえてないなあと思つたら顔見たくなくてクレームになるタイプです。こつちから積極的に関わって行って、教師の方から関心を向けてみたら、この寂しいタイプのクレームは予防することができます。

教師同士もそうです。ざつくり言うと、教頭替われば教師のうつ病の七割は治る。つまり、リレーションづくりの名人にいろんな先生がなつていって、向こうが悩みを相談する前にこつちから打って出れば、教師の持病は一気に減って



いくと思いますよ。

いじめの相談で書いて相談した子は八割。話した子は二割です。つまり、どうやってSOSを求めてもらうか、とても重要です。担任の発見は五%、保護者七%、同じクラスの子一二%です。七、八割はそもそも本人からの報告です。その内八割は書いて報告をします。つまり、自分で書いて報告がほとんどなのです。今後はラインがそれに代わると思います。一昨年にライン相談をしたら、二週間で電話相談一年間の二倍の件数になりました。学校でつらい目にあっている子供が、学校で先生に援助を求める。難しいでしょう。家にいる時にラインで援助を求めます。こつちの方がはるかに簡単ですよ。でも、今のところダメなので、最低でも報告してもらうために、こつちから打って出ていきます。少しでもSOSを出し易い雰囲気を作ってもらうには、SOSシートを作っていくのいいと思います。

4、スペースの作り方  
そしてその上で援助希求が開かれるためには、本当にできる雰囲気。これが出ていないとダメです。多分なかなか厳しい。特に忙しさです。忙しいとどうしてもカリカリ・イライラします。自分から一歩引くことを覚えましょう。「イラつとしたら離れる。」

教師は一人カラオケがお勧めですよ。衝動系の曲をガンガン歌ってくださいね。それから攻撃性が溜まっています。イライラしている子供や親から怒鳴られるふてくされる子供と一緒にされるお勧めは、印刷ミスの紙をちぎって叫ぶというワークです。それからもう一つ



5、援助的な声掛けの実習

「閉ざされた質問」・「開かれた質問」

どんな雰囲気がいいか。相手の先生が若手の先生は相談したかったら「実はなあ」と言える。誤魔化すこともできる幅広い声掛けがいいですよ。例えば、「最近どうですか?」こういう、声掛けだと、相談したかったら「実は」と言える。「大丈夫ですよ」と言えればいいですよ。

6、勇気つけ

六番。勇気つけ。これを是非覚えて帰ってください。最近、子供達にビシッとルールを守らせることができない教員が増えています。指導のうまい先生に共通する言葉がけ、指導のうまい保護者に共通する言葉がけは、してはいけないことを言いません。信頼と期待の言葉がけをすることを勇気つけと言います。つまり、あなたならできますよ。信頼と期待の言葉がけですね。

7、アドラー クラス会議

最後にアドラーのクラス会議。毎朝十五分をやります。クラス全体で円を作ります。一番の方から二番の方にいいところとをありがとうを伝えてクマのぬいぐるみを渡してください。ありがとうを渡して一日を始める。これだけでもいいです。これだけで、がちゃがちゃしている学級がだいぶ落ち着きます。是非やってみてください。



# 教科等別研究協議会報告

## 第一分科会

理科（金沢市学校教育研究会 金沢市立犀川小学校 戸田真実 教諭）

「グローバル社会を生き抜く人間を育てる理科教育」理科の見方・考え方を働かせて自然を追求する子をめざして」を研究主題として実践報告がなされた。実践では、主体的に学びを深める工夫、対話的に学びを深める工夫の二点を重点として設定した。



主体的に学ぶための工夫として好奇心を喚起する導入の工夫、ワークシートの工夫、タブレット（情報機器）等の活用が挙げられた。そして、対話的に学ぶために実験の場の設定の工夫や見方・考え方を価値づけるカードの活用が報告された。

社会科（石川県社会科教育研究会 金沢市立野田中学校 坂井宏行教諭）  
「児童・生徒が自ら学びに向かい、公民的資質の基礎を養う社会科教育」をテーマとして、生徒が興味を持ちやすい石川県の繊維産業を教材とした授業実践が紹介された。根拠を明確にした考察をするために「トゥールミンモデル」を活用したこと、多面的な考察をするために意見の共有場面を設定したことの効果を示された。  
地元の地域社会の特色を知る

## 第二分科会

数学科（石川県中学校数学会 研究会 金沢市立高尾台中学校 岡島悟教諭）

「基礎基本の定着とそれを活用できる生徒の育成をめざして」という研究主題で実践報告がなされた。証明の書き方が身に付くプリントや重点的な記述指導により、苦手を意識をなくした。さらにコンビニエンスストアの店頭でみられる図形、新幹線の座席といった身近なものを用いた対称移動の授業や、ロボット型掃除機の形からわかる利便性の授業、相似を活用して校舎の高さや大きさの測量する体験などの授業実践が行われ、県評価問題での無回答率の減少といった学力定着の研究の成果が得られた。



生活科（金沢市立夕日寺小学校 金森兼子教諭）

「子どもが創る生活科」かわり合う中から気付く子をめざして」という研究主題で実践報告がなされた。話し合い活動や体験活動が主体的・対話的で深い学びに通じると考え、第二学年におけるびよんびよんがえる折り紙遊びでは、子どもが試行錯誤を行い、友達との助け合う様子が見られた。作ったおもちゃの「工夫ポイント」をグループでまとめ、説明の大切さを促進させた。その後、「いいねカー

## 第三分科会

算数科（金沢市立諸江小学校 津田大樹教諭）

量感を大切にした「速さ」の指導「速さ」の本質を指し示して、をテーマにした算数科の実践報告がなされた。六年生の「速さ」の単元で①児童が考える「速さ」とは②速さを決定する二量を見出す指導③「平均」に気付かせると時速・分速・秒速の指導④量感をはぐくむための指導の四つの視点からの報告であった。たしたりひいたりできない「速さ」を目に見えないものとしてとらえさせるところから、概念付させ式へと導いていく工夫がなされている。また、今年度は六年生から移行してきた「速さ」と既存の「平均」を一貫して取扱い、複合的な単元として考えられるということが協議された。

音楽科（石川県音楽教育研究会 発声教育研究部会 金沢市立小坂小学校 佐竹未帆教諭）

「感動ある歌声をつくり出す子どもをめざして」をテーマにした音楽科の実践報告がなされた。歌唱教材による授業研究や、合唱指導者セミナーでプロの指導を受けることで教師の技能向上をはかり、その学びをコンサートで発表したり、コンクール等の運営に携わ



## 第四分科会

国語科（石川県書写教育研究会 金沢市立安原小学校 稲場麻維 教諭 金沢市立米丸小学校 町岡明日香教諭）

「基礎・基本を大切に、意欲的に考えて書く子を育てる書写指導」を研究主題として、実践報告がなされた。①導入では既習を確認し、課題をつかむ。②展開では自己評価、相互評価、視点の提示を行う。③終末では振り返りカードを書くというように、三つの場面それぞれ言語活動を取り入れた。その結果、最後まで自分の課題を意識し、意欲的に練習する児童の姿が見られた。書写における効果的な言語活動の在り方を見出すことができた実践であった。



社会科（県小学校社会科教育研究会 白山市立北陽小学校 久田公平教諭）  
「子供自ら学びに向かい、公民的資質の基礎を養う社会科教育

「きょう土のはってんにつくす」辰巳用水」の実践を通して」を研究主題として、実践報告がなされた。①子供が問題意識をもち、社会とのかかわりがわかる教材②子供の深い学びを実現する問題解決学習③子供が学習したことを次の学びにいかす評価と指導の三つを研究とした実践であった。成果として、子供の問いを生かした学習計画や学習発表会など見通しを持たせたことにより学習意欲が持続したこと、体験活動や地域資料により先人の工夫や努力・苦心に迫れたことが挙げられた。

## 編集後記

第七回研究大会が皆様のご協力により成功裡に終わることができました。午前中には、郡市町教育研究会協議会が開催され、野々市市と鳳珠郡の発表の後、人材育成についてのグループ協議が行われました。どの研究会においても研究授業を大切にしている専門性を高めたり、校内体制を工夫したりしている等情報交換されました。

午後の諸富先生のご講演は、リレーシヨンの実習を行いながら、声掛けの仕方や勇気づけについて具体的に楽しく学ぶことができました。教師はリレーシヨンの名人でなければならぬ」という諸富先生のお言葉が心に残り、ファシリテーションの力を磨いていかねばと思えました。会報の発刊にご協力いただきました多くの方々にご心よりお礼申し上げます。  
（広報部 神田 恵子）